

## 平成23年度 石山プロジェクト春学期 報告会

10月20日（木）第1講義室において、春学期の間、石山幼稚園、石山小学校でスクールサポーターを続けてきた学生たちによる報告会が行われました。半年間の活動を振り返り、自らの成果と課題を整理しそれらを交流することで学びを深めることが目標です。

当日は、学生27名、石山幼稚園教員1名、石山小学校教員1名、助言者（退職女性校長会から派遣）2名、大学教員1名、計32名が参加しました。



**幼稚園グループ**は、小麦粉粘土を使つての遊びを例に挙げ、年少児と年長児とでは、感じ方や行動が違ってくこと、発達特性を視野に入れた段階的の指導が肝要であることについて報告しました。参会者全員に小麦粉粘土を配り、その感触やにおいが感じられるようにしたり、クイズ形式で問いかけたりする等の工夫が見られました。



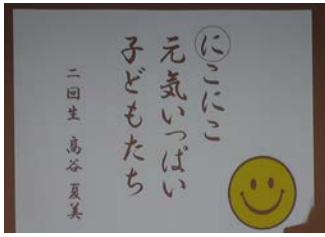
**6年生グループ**は、サポーターの個性を生かし、積極的に働きかけて人間関係を築くこと、また、「学校のリーダーである。」「来年には中学生になる。」等、立場や役割、進路について自覚させる声かけの大切さについて発表しました。また、思春期前期にあたる子どもたちだからこそ、普段の学習・生活場面において、一人ひとりの状況把握が肝要であると報告しました。



**4年生グループ**は、「子どもの目線で」「活用力」「疑問をもつ」「計画の視点」の四つのキーワードを挙げました。多様な視点からの子ども理解、わかりやすい授業にするための教材・教具の工夫、子どもたちが主体的に問題解決できるような働きかけ、個に対する支援と全体に対する支援のバランス等について、考えを巡らした報告でした。



**1年生グループ**は、「Before ~After」と題して、子どもたちの成長をペープサートで表現しました。5月頃（Before）には、自己中心性が目立った子どもたちが、9月（After）には、回りの子に働きかけたり、先の見通しをもって行動したりするようになった様子を例に挙げ、教師の地道な努力と、機をとらえたほめ言葉や指示等が重要であると報告しました。



2年生グループは、にねんせいを頭文字にした五つのキーワード「◎こにこ元気いっぱい、子どもたち」「㊦っしんな先生方のご指導」「う㊤、がんばった運動会」「㊤いかつ探検隊」「㊤っぱいの笑顔ありがとう」を作成しました。そして、それぞれに関わる具体例を紹介しながら、子どもたちの成長ぶりや、先生方、子どもたちへの感謝の意を表現しました。



3年生グループは、子どもたちの学習参加を支援するための手立てについて考えました。その日の子どもの調子をつかみ、その子の立場に立って考えながら、学習支援を行ったり、安全管理に気を配ったりすることの大切さについて報告しました。



5年生グループは、子どもたちの積極性や熱心さが現れている場面を紹介しながらの報告でした。授業補助については、学習のつまずきの原因を探りながら、個別に対応したり、結果に至る過程を評価したりすることが大切であるとまとめました。



なかよし学級グループは、一人の人間として、しっかりと子どもと向き合うこと、子どもの「できない」気持ちを受けとめ、できるようになるまで繰り返しサポートを続けること、子どもたち同士の関わりが深まる声かけをすること、教師も楽しむ姿勢を持つことが子どもの笑顔につながること等の気づきについて報告しました。



☞ 蛍光灯の光が七色に見える自作教材のプレゼントもありました。

学生報告の後、石山幼稚園、石山小学校、滋賀県退職女性校長会（滋賀県梅の実会）の先生方から指導助言をいただき、春学期の報告会は終了しました。

スクールサポーターの皆さん、ご苦労様でした。

お忙しい中ご参会頂きました先生方、ありがとうございました。